

石狩市でのT S実践セミナーのとりくみ報告

P & Aいしかり

世話人 金子 浩治

はじめに

この度、トラブルシューター養成セミナーを石狩市で開催することが出来ました。平成13年に小樽で開催されて、是非、石狩市でも開催をと3年越しの願いが実現しました。石狩市での開催あたっては、主催はNPO法人P a n d a - J。共催は石狩市、石狩市自立支援協議会、NPO法人石狩市手をつなぐ育成会、P & Aいしかり（NPO法人石狩市手をつなぐ育成会、石狩市障がい者支援センター保護者会、社会福祉法人はるにれの里による構成）。後援は石狩市社会福祉協議会というかたちで行うことが出来ました。石狩市でのトラブルシューター実践セミナーの報告の前に、これまでの経過として「P & Aいしかり」の発足から現在までの活動を紹介させていただきたいと思います。

I. P & Aいしかりの発足経過とこれまでの活動について

北海道では平成13年（2001年）に障害のある人のためのセイフティーネット会議・北海道（PA北海道代表 喜来 業康氏）が発足しました。マリリン・ジョンソン刑事講演会「知的障害者を守る警察」、北海道警本部とのジョイントワークショップ「知的障害者を理解するために」、バーバラ・ランサム弁護士講演会「知的障害者の弁護」、PA北海道による電話相談「SOS コール」などの取り組みがされていました。

NPO法人石狩市手をつなぐ育成会の佐々木さん（現在のP & Aいしかり世話人代表）がP & A北海道の学習会や活動に参加していました。石狩市でもPA運動を作っていきたいと共に話し合われてきました。

平成22年（2010年）7月、石狩市障がい者支援センター保護者会主催でP & A北海道代表の喜来さんを招いての講演がありました。「P & Aとは、“障がい者本人の力を引き出して守る”との意味です。米国などでは、障がい者を施設に閉じ込めるのではなく、地域の中で暮らすという考えが主流となっています。日本でも地域生活移行の考えが少しずつ定着し始めています。しかし、障がい者は物事を理解したり表現する力が弱いため、犯罪の被害者になったり、逆に“加害者”にされてしまうことも多いといえます。そんな状況を改善しようと啓発活動などがP & Aによって取り組まれてきました。」とPA運動が紹介されました。この講演会の終わりに、「是非、皆さんと一緒に「P & Aいしかり（PAI）」をつくりましょう」と提案させていただきました。その後、同年9月にNPO法人石狩市手をつなぐ育成会役員会そして、石狩市支援センター保護者会役員会でP & Aいしかり設立準備会発足の提案をさせていただき賛同をいただきました。

平成22年(2010年)10月27日にP&Aいしかり設立準備会が発足し、活動が始まりました。

具体的な取り組みとして当面、コンビニ向けパンフ(P&A大阪製作のたのんますパンフ)配布とサポーター協力店依頼を12月の障がい者週間に石狩市内の全コンビニ、スーパーを対象に取り組むこと。そして、その為の活動資金(パンフ作成・印刷費等)を1口500円のワンコインサポーター協力活動によって集めていくことにしました。

2年目にはPAIステッカーを作成し、「たのんます」パンフと一緒に、石狩市内の全コンビニ、スーパーへ配布しました。また、事前に石狩医師会を訪問しPAIの協力依頼活動についての説明した後、石狩市内の病院関係へ医療機関関係者向けパンフとPAIサポーターマークを持参して、サポーター協力の依頼活動を行いました。また、北海道札幌方面北警察署を訪問し、PAI活動と石狩市内の全駐在所へP&Aサポートファイル持参し協力依頼の訪問を進めていくことについて説明させていただきました。その後、石狩市内の浜益地区、厚田地区、石狩地区の駐在所訪問を行いました。

石狩消防署・中央バス石狩営業所への訪問依頼活動では、同じくP&Aサポートファイル持参し協力依頼も行いました。配布したP&Aサポートファイルには、全日本手をつなぐ育成会作成の警察向けパンフ「知的障がいのある人を理解する為に」やパンフ「あなたも今日からサポーター知ってほしい!知的障がい」をはじめ、P&A大阪作成パンフ、セイフティネットプロジェクト横浜作成各種パンフがファイルされています。是非、常設して皆さんで見てください、活用して欲しい旨を伝え、協力依頼をおこないました。



P&Aいしかりは2年間の準備会活動を経て、2012年12月15日、正式に会を結成しました。



サポーター協力店の依頼活動

P&Aいしかり設立準備会では、2010年12月の障がい者週間で6日・8日に、石狩市内のすべてのコンビニ・スーパー等のお店に、知的障がいなどを抱える人たちの行動の幅をイラストで分かりやすく紹介した「たのんます!知的障がいのある人のサポーターのお店」パンフレットの配布とサポーター協力店の依頼の第1弾の活動を行いました。2011年6月29日・24日には第2弾、2013年6月19日～21日には第3弾の再度訪問でサポーターマークの店頭貼りの協力依頼活動を行いました。

警察交番・駐在所への依頼活動

平成24年6月13・14・19日の3日間にPAI警察向けサポーターファイルを配布し、協力依頼活動を行いました。13日は花川北交番・鹿交番、14日は北海道警察北署生活安全課・警務課、19日八幡駐在所・石狩駐在所・望来駐在所・厚田駐在所・栢木駐在所・浜益駐在所へ訪問し、2ヶ所不在のところもありましたが、皆様には忙しい時間帯にもかかわらず早く対応していただきました。

配布した警察向けサポートファイル

配布したサポートファイルは、全日本手をつなぐ育成会作成の警察向けパンフ「知的障がいのある人を理解する為に」やパンフ「あなたも今日からサポーター知ってほしい!知的障がい」をはじめ、P&A大阪作成パンフ、セイフティネットプロジェクト横浜作成各種パンフがファイルされています。是非、常設して欲しい旨を伝え、協力依頼をおこないました。

こうしたサポーター協力・啓発活動の一
方で、「共に考える集い」を企画し第1弾
では札幌市白石区で起きた姉妹孤立死問
題を取り上げ、「札幌白石区 姉妹孤立死
問題わが街いしかりで共に考える集い」を
開催しました。姉妹孤立死の経過を動画や
資料に基づき振り返り、小グループに分か
れて身近な問題としてわが街いしかりで
この様な孤立死事件を起こさないために
何をしたらよいか共に考えました。

広報宣伝の面ではP&Aいしかりの活
動をその都度、記録に残してPAIの活
動紹介のパネルを作成し、色々な機会に
パネル展示したり、活動広報の発行やホ
ームページでの宣伝を行ってきました。

平成24年(2012年)12月15
日にはPA北海道代表の喜来業康氏を招

いて、P&Aいしかり正式結成の集いを開催しました。正式にP&Aいしかりがスター
トしたわけです。準備会時の3団体から世話人を出して世話人会が構成されました。

P&Aいしかりでは毎年必ずコンビニ・スーパーへの依頼活動を行ってきました。と
にかく「継続する」ということを大事にしてきました。

また、知的障がい当事者の会「石狩大地の会」への説明、石狩市民生委員児童委員連
絡協議会障がい者福祉部会との懇談会や「地域での暮らしを共に考える集い 僕たちの
結婚そして、伝えたいこと(当事者同士の上原真治さん、祐子さんご夫婦をお招きして)」、

「これって虐待?虐待の芽?共に考える集い」、「西村弁護士成年後見学習会」などを取
り組んできました。地域での暮らしを共に考
える集いでは、奥さんの祐さんがダウン症
であることから北海道小鳩会の保護者の皆
さんが多く参加され、実際に結婚しているお
2人の話を聞いて、わが子も将来はと希望を
持たれ、大きな励ましになったようです。

平成27年には映画「降りてゆく生き方」自主上映の取り組みをおこないました。自
主上映に向けて、地域の商店等への協力依頼や石狩市民生委員児童委員連合協議会6地
区すべてを回っての説明会など、単に上映するだけではなく、その過程で地域との繋が
りづくりを大事にして進めてきました。当日は316名の観客が来場されました。



これまでのP&Aいしかりの活動が今回の「トラブルシューター養成セミナー」石狩市開催へとつながってきました。

II. 石狩市の状況

石狩市の総面積は722.42平方キロ。東西に28.88km、南北67.04kmに広がって西側一帯は石狩湾に接しています。北から浜益地区、厚田地区、石狩地区となっています。特に石狩地区は札幌市に隣接しています。人口は59200人。

石狩市は「手話を言語」として認知し、手話基本条例を制定し平成26年4月1日から施行されています。

石狩市の障がいのある人の総数は、次の通りとなっています。数字は平成26年12月末現在で各種手帳を所持している人の数で、手帳を取得していない障がい児・者が潜在的に見込まれます。



■ 障がい別・年齢別手帳所持者数

区分	18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上	合計
身体障がいのある人	57	752	2,184	2,993
知的障がいのある人	167	308	33	508
精神障がいのある人	0	314	56	370
計	224	1,374	2,273	3,871

(単位：人)

■ 石狩市内の障がい福祉サービス事業所種別数

事業所種別	個所数
地域活動支援センター	4
障がい者就業・生活支援センター	1
相談支援事業	4
児童発達支援・放課後等デイサービス	8
短期入所（入所施設2ヶ所、単独短期2ヶ所）	4
就労継続支援(B型)	6
就労継続支援(A型)	2
就労移行支援	1
施設入所支援	2
グループホーム	27

事業所種別	個所数
生活介護	10
居宅介護・重度訪問介護	10
行動援護	2
同行援護	3

Ⅲ. 石狩市で開催された「性犯罪再犯防止支援者研修 sotosec-ID」「トラブルシューター支援者養成セミナー（基礎コース）」の取り組み

初日の3月12日（土）に開催された「性犯罪再犯防止支援者研修 SOTSEC-ID」には当事者の家族会、民生委員、福祉サービス事業所職員、養護教員、相談機関、弁護士など41名の参加がありました。参加者は石狩市内だけではなく札幌、旭川、後志からも参加がありました。SOTSEC-IDは性的なトラブルなどの困ったことを乗り越え、いきいきと暮らせるようになるために、



本人と地域支援者たちが協働し包括的に支援する英国発祥のプログラムで、堀江まゆみ先生（白梅学園大学教授・NPO法人PandA-J代表）より概論の説明が、平井威先生（明星大学・SOTSEC-IDJapan 多摩）より東京の多摩地域での取り組みについて紹介をいただきました。参加者はSOTSEC-IDについて初めて学ぶ機会となり、アセスメントや認知行動療法によるアプローチ等の重要さといかに支援の中にプログラム化して取り入れていくかといったことへの関心の高さがうかがわれました。



2日目の「トラブルシューター支援者養成セミナー（基礎コース）」には当事者の家族会、民生委員、福祉サービス事業所職員、養護教員、相談機関、弁護士65名の参加がありました。この日も参加者は石狩市内だけではなく札幌、北広島、室蘭、釧路からも参加がありました。

トラブルシューター養成講座では堀江まゆみ先生よりトラブルシューターとは何かについての説明を、中田雅久先生（弁護士・多摩TSネット）より司法の立場よりトラブルになったときどうすればいいのかということを刑事手続きや東京TSの活動の紹介を交

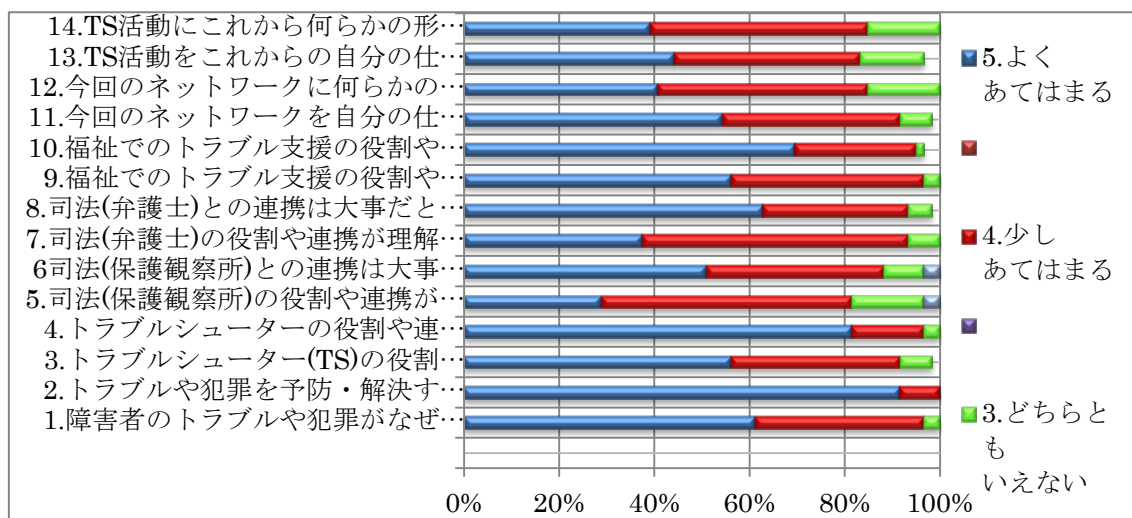
えながら説明をいただきました。また石狩市の地域ではどのような現状があるかを市内の委託相談支援事業所から紹介をしております。午後からは野沢和弘先生（毎日新聞論説委員・NPO 法人 PandA-J 副代表）より過去に障がいのある方（特に発達障がい者）が絡んだ事件報道と背景の紹介や英国視察についてお話をいただいております。両日ともに講義後にはグループディスカッションが行われ、具体的な事例をもとにして私たちがどのようなことをやっていけるのか、だれが何をしたらよいか、石狩市ではどのような体制が必要とされるかということディスカッションし、関係機関全体のコーディネーターの必要性や福祉現場ではあらためてトラブル等にはしっかり目を向けていくことの重要性や当事者の一層の自立や地域・関係機関への理解の促進等についても意見が出されていきました。研修を通じて、これから石狩市ではどのような取り組みを行っていくべきか、問題解決だけではなくていかに有機的な連携を図っていくべきか、全体のコーディネーター機能はどこがどう担っていくのか等々のたくさんの宿題をいただきました。また、この日は受講修了者に修了証を発行し、グループワークの参加者毎に各講師の先生方と一緒に記念撮影をしました。



トラブルシューター養成セミナー参加者からは65名中59名の方からアンケートに協力いただき、多くの貴重なご感想・ご意見をいただきました。詳細については別紙1に掲載しました。

14項目の問いかけに対してのまとめは、以下のグラフの通りです。

■今日の研修に参加してみて、あなたはどのように思いましたか？当てはまるものに○をつけて下さい。



このアンケート結果からみられるように、トラブルシューターの役割や連携等の必要性の「理解と認識」（1～10）がかなり高い数字で示されています。また、「理解と認識」だけではなく「関わり・役立てたい」（11～14）という項目も高い数字で示されています。今回の研修・セミナーの意義が大きく、次の行動につなげる機会となったのではないかと思います。

IV. これまでの石狩市での対応状況と今後について

1. P & Aいしかりの取り組みから

前述の通りこれまでP & Aいしかりは身近な地域に「良き理解者・サポーター店」ということで、5年半に渡り主に啓蒙・啓発を中心に行ってきました。今後これまでのコンビニ・スーパーへのサポーター協力店の依頼活動を継続する中で、さらにトラブルシューターの店になってもらい協力関係を作っていくために、具体的なとりくみの検討を進めていく新たな段階に入りました。

2. これまでの地域でのトラブル対応から

これまで地域で障がい者がからかわれたり、いじめられたりといった事例や夜にコンビニに一人で来店した重度自閉症者が保護された事例。障がい者が加害者になった事例など様々なことがあります。その事例ごとに関係する福祉サービスや相談事業所・支援者・家族・市職員などが個々に対応してきた状況にあります。これまでの様に個別ケースで終わりではなく、第一歩として再発防止や問題が起きた時の対応のノウハウ等、共通の地域課題として共有できる内容についてはネットワーク拠点で共有し、何かトラブルがあった時にはすぐに相談できる拠点など、今回のトラブルシューター養成セミナーでの東京TSネットの取り組みを通してネットワークの仕組みづくりの重要性を学びました。

3. 触法障がい者への支援の状況

初日の3月12日（土）に開催された「性犯罪再犯防止支援者研修SOTSEC-ID」の後に検討会を行いました。その中で、事前に「障がい者トラブルの実態と取りまく諸問題地域分析シート」石狩市地域自立支援協議会のメーリングを通して依頼し返信があったシートの報告内容やこれまで触法障がい者の受け入れと支援を行ってきた障がい者支援施設やグループホーム、石狩市の相談支援機関である「ぶろっぷ」と「ヨルド」から事例報告もとに話し合われました。

課題としてあがっていた事例では、地域生活定着支援センターからの情報が、受け入れ先としての住む場所が決まってから、相談機関や行政に連絡が来るケースがあり、事前の調整もないまま、短期間で当事者情報やアセスメントも乏しい中で受け入れ支援が始まるといった内容のものがありませんでした。

一方で、（福）はるにれの里の障がい者支援施設厚田はまなす園では、地域生活定着支援センターから受ける発達障がい者の触法ケースの多くは、刑務所出所後に一時

的に医療機関で入院を通して、医師によるアセスメントと支援施設からスタッフが入院中に訪問して関係づくりとアセスメントを行っている。刑務所内でのアセスメントをしても出所後では全く違ってくるので、特に発達障がい者への特性理解や刑務所内での本人評価の違いもあり、こうした「アセスメント」は実効性があり重要な点であることが報告されました。医療機関利用については、地域定着支援センターや相談支援が利用目的を説明してご本人の理解を得ながら進めている。出口がはっきりしているのも、医療機関の方でも連携しやすい状況にあるとのことでした。

厚田はまなす園でこれまで受け入れた4つの事例を通して、

一つに、関係する各機関（地域生活定着支援センター・相談機関、児童相談所、更生相談所、保護観察所、北海道警察少年サポートセンター、保健所、市の保健福祉課福祉支援係、自閉症・発達障がい支援センター等）や病院（医師・ソーシャルワーカー）、障がい福祉サービス事業所等との「調整会議」は必ず出口支援として重要視して位置付けています。調整会議やアセスメントをもとに、発達障がい者の触法ケースに対して、障がい特性の理解とその特性を踏まえた支援プログラムを立て、必要に応じて医療との連携を図りながら支援を進めていること。

二つに。施設入所後は段階を経て、法人内の地域のグループホームに移行し就労事継続事業所に通所するケースと、当初から厚田はまなす園期間限定での入所で、トレーニングを経て他法人の事業所に移行するケースなどがある。調整会議や支援計画で受け入れにあたって移行計画を事前に協議していること。他法人事業所に移行後も相談機関と連携しバックアップを行なっていること。

三つに、厚田はまなす園は重度自閉症者を主として障がい者支援施設であることから、知的には高い発達障がい者が施設に違和感を持つといった状況もあり、一方で高機能の発達障がい者を受け入れ先が中々無いという問題もあること。

等が報告されました。

4. 今後の課題と取り組みについて

前述の1～3から今後の課題と取り組みについて考えていくと

1つに、P&Aいしかりでの啓発活動から一歩進めた身近な地域の中に、見守りサポートも含む一般市民参加型のTS（トラブルシューター）ネットワークづくりを具体的に進めていく活動の重要性があること。

2つに、現在、個々に取り組みされている実践をTS（トラブルシューター）ネットワークという形でセミナーから学んだまさに「ケースアドボカシーを超えてシステムアドボカシーへ」の取り組みが重要であること。

これら2つの方向で取り組みを進めていきたいと考えています。先日、石狩市地域自立支援協議会にTS（トラブルシューター）ネットワークづくりを提案しました。今回のセミナーをきっかけに、札幌市からの参加者からTS（トラブルシューター）ネットワークづくりの動きが生まれそうです。今後、連携して進めていきたいと考えています。

別紙1

「トラブルシューター支援者養成セミナー（基礎コース）」

参加者アンケート意見・感想

I 障がい福祉に関わる支援者

- 1 トラブルシューターの役割や必要性について、確認できました。とても大切なことと思うので、何らかの形で関わられるようにしたいと感じました。
- 2 野沢さんがおっしゃっていたように、何かとても難しい事案だと思い、避けていた面があったと思います。福祉のネットワークのやり方に似ていて、できることから始められるものだと思います。日々の仕事の中で、どのように取り組めるかも考えどころだと思いました。地域を知ることやっていきたいと思いました。
- 3 参考になりました。
- 4 本人のプライバシーに配慮しないと関係性がくずれると思うが、問題が表面化するとプライベートの関係の中では対処は、難しいと感じます。
- 5 今日は一日ありがとうございました。「トラブルシューター」と初めて聞きました。当事業所に通所されている利用者さんがいつか“触法”になるのでは？という危惧から今回受講しました。ヒントがたくさんあり、地下鉄の駅員さん、コンビニなどに理解してもらおうところかな・・・と思いました。当事業所、法人の職員を巻き込んでみんなでトラブルシューターになりたいと思います。
- 6 ネットワークの重要性を常に感じています。現状としてはまだまだ不十分ですが・・・
- 7 ありがとうございました。とても有意義でした。
- 8 福祉もサービス業になってきていると思いますので・・・。今後もスキルを高めたいと思いました。性的な問題のアセスメントシートを作りたい。
- 9 自身、仕事をしている方の支援を主に担当していますが、仕事面ではなく、生活面で触法行為をされる方が多いです。そのため、自身で対応できる術を学ぶつもりでしたが、やはり個人では限界があることを改めて認識しました。本日はありがとうございました。
- 10 TSということをあまり知らなかったが、今後そういった視点も含めて、自分の地域での活動を「巻きこむ」という意識で機関等と連携していきたいと思いました。
- 11 トラブルが起きる要因と起こらないようにする環境作りの重要性を改めて理解することができました。
- 12 普段、あまり関わる機会の少ない司法の方の話やトラブルシューターとしての役割について様々な分野の方に意見も聞くことができ、とても参考になりました。自分の日々の活動の中にあてはめ、振り返りをしながら、広い視野で活用していきたいと思いました。
- 13 現在、札幌弁護士会とさっぽろ地域づくりネットワークワンオール(基幹センター)が年4回共催研修(勉強会)を開催しておりますが、28年度の勉強内容に行き詰まり感があり

ました。今回の研修には弁護士と一緒に参加させていただき、今後に役立てたいと思っておりました。中田弁護士の「個別ケースで動けるネットワークを作る」という話の中ではケアアドボカシーからシステムアドボカシーへが一番印象に残り、それに向けた取り組みや研修が必要ではないかと思ひ、大変、勉強になりました。

- 14 どのように対応、支援してよいのかわからないことばかりですが、ネットワークを生かして取り組んでいきたいと思ひます。
- 15 以前より意識はありましたが、実際に事例、データを聞き勉強になりました。
- 16 障がいと犯罪に結びつきの難しさ。
- 17 地域での支えが必要であり、その人の生活を理解すること、毎日の表情・行動の変化を見極める目が再犯防止につながるのかな。グループワークで理解深まりました。
- 18 以前より、触法障害者の方と関わる機会もあり、今回の研修にとっても興味があり参加しました。今回の研修を機にもっと勉強したいと思ひます。
- 19 他職種、様々な立場の支援者の連携の大切さを感じました。
- 20 普段は、目の前の利用者さん支援で精一杯であるが、本講座で学んだこと(支援者として障がい者についての理解を周囲に伝達できる立場であることを自覚して、日々の活動で実践していきたいと思ひます。
- 21 まず今の自分に何ができるか、今日学んだことをどう生かすか、行動をおこすことが大事だと感じました。
- 22 トラブルシューターの役割について、今後自分の仕事に生かされるように、障がい者の方の視点を考えていきたい。移動支援を行っているので、外出でのトラブルにあった時に、今日の研修を少しでも役立てていけるように、職場に持ち帰り、TSの活動について少しでも啓発できるようにしていきたいと思ひます。
- 23 「昨日のお話」とおっしゃっていましたが、昨日のお話は聞いていないので(今日のことしか知らなかったのも)、良くわからないこともありました。障がいの特性等、きちんとくわしく、こちらが理解していないと、逆に大変なことになってしまうこともあるのかなという不安もあります。職員同士の情報の共有、また、個人個人での認識も日々深めていかないといけないと思ひました。
- 24 身内にも障害者がいます。万一の時のためにと今回セミナーに参加させていただきました。ありがとうございました。
- 25 昨日今日の講習を通じて地域でできることがあるんだと気づきました。制度とかではなく協力したい、何か役に立ちたい気持ちがある人たちが集まっていけばいいのだと思ひました。これからもっと勉強していきます！

II 当事者の親

- 1 制度があってもなくても、社会の中で生きていくうえで、やらなくてはならないことを改めて考えました。自分の働いている事業所も、法人になる前や、制度が整備されて

いない時のほうが、イキイキ働けた気がします。また、これまで考えてこなかった社会資源について知ることができ良かったです。

- 2 とても勉強になりました。P&Aの関わりもより深く関わりができてくると思う。自分の子を地域に知ってもらい、トラブルを防ぐためにも頑張りたいと思う。
- 3 入り口支援・出口支援の大切さを感じました。何気ない行動の癖やパターン化された思い込みが、犯罪と受け取られかねない発達障がい、知的障がいの方達をどうしたら守ることができるのか、今後も考えてゆきたいと思います。ともに生きる地域づくり！！
- 4 とても勉強になった2日間でした。ありがとうございました。
- 5 札幌他でも実施したいと思いました。
- 6 P&Aの立ち上げ研修会に参加しました。立ち上げを考えましたが、市内のどこの組織にも参加していないため一人では無理なので、身近な組織に働きかけようと思いましたが、断念しました。
- 7 自閉症の子供を持つ母です。ちょっとしたことで犯罪に巻き込まれる可能性があることを知り驚いています。コミュニケーションが取れる方が身近にいてくれると助かります。障がいのことも理解してくれたら犯罪は減るのかな？と思いました。今日のTS研修で勉強になりました。
- 8 「触法行為」問題に直接関わったことはありませんが、自閉症の息子が実際にこのような場面に、立場になったら・・・と思います。一人でも地域の方に障がいの理解者が増えて下さるよう、これからも啓発活動を続けていきたいとあらためて感じました。最後のグループワークは、様々な立場、地域の方とお話する機会となり良かったと思う。講師の先生方の講義は大変興味深く、勉強になりました。ありがとうございました。運営に関わった皆様、大変お疲れ様でした。
- 9 障がいがあっても活躍できる場所や居場所があることで、自己肯定感につながり、気持ちも安定し、犯罪から遠ざかるのではないかと特別扱いせず、一個人として尊重することが大切だと思いました。とはいっても、殺人まで犯してしまう人(幻覚や幻聴に誘導され)をどう支えていったら良いのか、何か起きてしまった時の、被害者のことを考えると不安になります。私の娘も万引きで捕まったことがあり、事業所は「自宅で反省を」といいましたが、抗議しました。ただ罰を与えるだけでは、根本的な解決にはならないと思います。
- 10 友人、知人がトラブルに巻き込まれたこともあり、なんとなく目を閉じてやり過ごしたこともあり、今後、本日の学びをかみしめて拵げていきたいと思っています。いろいろな学びが繋がらない。市内のいろいろな委員会、協議会のつながりが良く見えない。
- 11 各得意分野、専門の強みを生かし互いに連携することが、当事者や家族、社会にとって有益であり、救う。犯罪者として扱われ、犯罪者になりうる種はどこにでもある。他人事ではないことを実感。ご本人の特性理解者の多くいる地域づくりが保護者としてできること、すべきことを再度考える機会になりました。

Ⅲ 民生委員

- 1 民生委員の活動に役立つと思って参加しました。TSのネットは行政が旗振りしてほしい。

更生支援計画と実行について①「入り口支援」の中で、更生支援計画を作成する気運とメンバーの顔触れが、2～4年後「出口支援」の時期の実行とにギャップはないか。

- ・本人の施設中での経験・習得内容
- ・支援メンバーの盛り上がり・気運が薄れる
- ・支援メンバーの環境の変化
- ・支援メンバーの入替
- ・地域社会の変化

石狩市社会福祉協議会として、情報を得たい。

- ・民生委員は地区別に分かれて、毎月連絡の例会を行っています。
- ・その際にパンフレットを配布していただければ、委員の判断で参加する or しない。

Ⅳ 教員

- 1 在学中に問題行動のあった生徒について（関連する機関とはつながっています。）
- 2 刑事事件の話など、司法の研修を受けたことがなかったので大変参考になりました。様々な形のネットワークがありますが、多くのつながりを持って活動していく意味を再確認できました。ありがとうございました。

Ⅴ 不明

- 1 継続してください。TSを自立支援協議会の部会として設置させる。
- 2 研修に行く前は、トラブルシューターって何？と思っていたけれど、研修に出て役割や重要性が理解できた。
- 3 〈障害とその特性と理解〉と合理的配慮の間には、ずいぶん距離があると思いました。